

教育的価値	具体的項目	教育課程
1【かかわる】	[⑨仲間や地域の人々とのつながり・⑩自分と地域社会・⑬地域づくり] ・地域に伝わる伝統芸能「中野七頭舞」の継承と小本中から全国への発信を行う。 ・全国中学校総合文化祭で、小本中の全員で取り組む「中野七頭舞」を発表することを通して、誇りと自信を持って小本中からの発信を行う。 ・「中野七頭舞」を見ていただいたすべての人たちや、中野七頭舞保存会をはじめとする活動を支えてくださる人々との「絆」について考える。	総合的な学習 学校行事 ・全国中学校総合文化祭(沖縄県)での「中野七頭舞」発表 (総合的な学習14時間および、放課後保の存会練習+学校行事として実施) (総合的な学習3時間および、休日の活動として実施)
2【そなえる】	[⑯自然災害発生のメカニズム・⑳学校・家庭・地域での日頃の備え] ・「防災教室」の実施、防災マップへの取組を通して防災意識の向上を図る。	

【題材】『中野七頭舞』・『防災教室』

～地域の伝統文化の継承、地域防災マップの検証の取組を通して～

【対象】小本中全校生徒 45名 (1学年 14名 2学年 13名 3学年 18名)

【これまでの小本中】

震災後「あたりまえの学校生活をあたりまえに」を掲げ新生小本中の学校生活が始まった。平成24年1月、現在の仮設校舎に移り現在に至っている。この3年間多くの人々から励ましや支援をいただき、交流を持ってきた。その中で生徒たちは、「自分たちが懸命に活動することで、地域の方々や支援をしてくださったみなさんが心から喜んでくれること、自分たちが他の人を勇気づけている」ということを知り、「人々との絆」を実感してきた。



平成二十三年度 文化祭全校演劇

【本年度の取組】

本年度は、以下の事を中心に据えながら活動を計画し取組を行う。

- ①地域の伝統芸能である「中野七頭舞」の継承を全校取組として継続・発展させること。活動の中で生徒ひとりひとりが役割を持ち、小本中生として積極的にかかわり、「誇りと自信」を持って活動すること。
- ②来年度末に予定されている小本中学校新校舎への移転を見据えて、「防災教室・地域の防災マップ作り」を継続し、自分たちが住む地域の特性を知り、自然災害とどのように向き合っていくか、安全に避難するためにはどのような備えが必要かを考え、学ぶ機会とする。

実践Ⅰ 全国中学校総合文化祭のステージで、地域の伝統芸能である「中野七頭舞」を全校生徒の手で協力して発表すること。小本中から「誇りと自信」を持って発信をする。

実践Ⅱ 防災教育として、「防災教室」を実施すること。その中で、昨年制作した防災マップについて、生徒の撮影した写真による検証および、後輩への伝達を行うこと。

【復興教育の視点】

実践Ⅰ 「中野七頭舞」全国中学校総合文化祭ステージ発表への取組

かかわる [⑨仲間や地域の人々とのつながり・⑩自分と地域社会・⑬地域づくり]

「中野七頭舞練習会」および各行事での「中野七頭舞の発表」に向けての取組を通して、誇りと自信を持って発信すること。また、活動を支えていただいたみなさんや、地域をはじめ全国の方々と交流し、小本中生の活動が地域や社会と深くかかわりながら成り立っていることをあらためて認識させる。

実践Ⅱ 「防災教室」

そなえる [⑯自然災害発生のメカニズム・⑳学校・家庭・地域での日頃の備え]

盛岡地方気象台から講師をお招きし、「これまでにない大雨、大雨による災害」のメカニズムを学ぶ。また、昨年制作した防災マップをもとに、地域の避難場所、危険な場所、災害時に役立つものなどの写真による検証・後輩への伝達を行い、防災意識の向上を図る。

【実践内容の紹介①】 実践Ⅰ「中野七頭舞」全国中学校総合文化祭ステージ発表への取組から

総合的な学習(14時間扱)
学校行事(5回)
小本中学生45名

かかわる
⑨仲間や地域の人々とのつながり
⑫自分と地域社会
⑬地域づくり

【題材名】「中野七頭舞」全国中学校総合文化祭ステージ発表に向けての取組

【対象】岩泉町立小本中学校生徒45名

【ねらい】

(1)郷土の伝統芸能「中野七頭舞」について学び、全校生徒の協力で発表することを通して、郷土の文化に誇りを持たせる。あわせて、将来にわたって地域とどのように向き合っていくかを考える機会とする。

(2)自分たちの活動が、多くの人々の支えにより成り立っていることに感謝するとともに、まわりの人たちを勇気づけていること、自分たちもまた、地域文化の担い手であることに気づき、誇りと自信を持って活動する。

【活動の概要】

(1)役割分担と内容 (※全校生徒45人が役割を担った)
「舞い」18人・「お囃子」9人・「語り」6人・「道具」6人
「パソコソ操作」3人・「記録」3人の6つの役割を設定して活動。

- ア「舞い」：舞いの習得と練習 (工藤,菊池(聡),小野寺)
- イ「お囃子」：各楽器の演奏の習得と練習 (佐々木,鎌田)
- ウ「語り」：原稿の作成・発表練習 (菊池(麻)・小田島)
- エ「道具」：道具の点検・管理・搬送 (佐々木・田畑)
- オ「映像操作」：パソコソ/プロジェクタ等機器操作(小田島)
- カ「記録」：当日までの活動の映像記録 (畠山)

○全体統括・渉外(大越副校長・工藤)

(2)おもな活動

- ア 中野七頭舞練習(9月～水曜日6校時他：総合的な学習14時間)
- イ 中野七頭舞保存会練習
(部活動終了後に、公民館・本校体育館等で課外活動として実施)
- ウ「中野七頭舞」の披露(H26年度)
 - ・新校舎起工式(小本中学校新校舎建設予定地) 6/19
 - ・国民文化祭(秋田県田沢湖芸術村) 10/12
 - ・小本中文化祭「龍甲祭」(小本中学校校庭) 10/26
 - ・岩手県中学校総合文化祭(岩手県民会館) 11/22
 - ・全国中学校総合文化祭(沖縄県浦添市てだこホール) 12/13
 (平成26年度は学校行事として5回実施)

中野七頭舞保存会からの支援

中野七頭舞保存会は、会長代行の阿部一雄さんをはじめ多くのみなさんに、「中野七頭舞」の指導をいただいている。今回、全国中学校総合文化祭の発表にあたり、中野七頭舞保存会のみなさんには、水曜日の総合的な学習の時間での指導、部活動後の保存会練習に協力いただいた。さらに、すべての発表の機会に同行し、お手伝いいただいた。誠に感謝の念に耐えない。

生徒達も発表の回数を重ねるごとに、着付けや衣装の仕舞い方、道具の手入れや道具作りについてもご指導いただいたことで、自分の衣装や道具について大切に扱いながら継承していくという意識を持って活動するようになってきた。



舞



お囃子



語り



道具



映像操作

【「中野七頭舞」全国中学校中学校総合文化祭発表のようす】

「語り」学校紹介 ～「中野七頭舞」への取組～

私たちが生まれ育った岩泉町は、岩手県の中央部から東部に位置し、本州一広い緑豊かな町です。小本中学校は海のすぐ近くにあって、東日本大震災で津波にあい、自慢だった校舎が使えなくなりました。現在、私たちは仮設校舎で生活しています。仮設とはいえ、自分たちのための校舎という安心できる居場所があることは、本当に幸せです。

中野七頭舞は天保の飢饉の苦しい時代に、貧しさに負けずに踏ん張ろうという励ましや慰めの思いから生まれた神楽舞が変化した踊りです。

七頭舞は、名の通り七つの道具と踊りから成り立っています。

- ・先打ち：荒野をかき分け進みます。威厳を持って踊ります。
- ・谷地払い：荒れ地を改良するため道具を回しながら舞います。
- ・薙刀：木を倒し、獣を追い払い力強く舞います。
- ・太刀：大切な田畑を守る見張り役ですから勇ましく舞います。
- ・杵：豊作となり餅をつき祝う気持ちで踊ります。
- ・小鳥：豊作を祝い扇子を用いしなやかに踊ります。
- ・ささらすり：人々の疲れを癒し、活力を与えるため滑稽に踊ります。

七種類ある踊りの中から今日舞うのは、農地を開拓するための人材をそろえる「よこばね」、開拓する田畑を襲う邪魔者や獣と戦う「きりあい」、汗水流してみんなで労働に励む「つとつと」豊作を喜び神様に感謝し舞う「みあし」、そして踊りの中で呼吸を整えるための「ちらし」の5種類です。

平成二十三年、津波で道具や衣装が流され、文化祭で毎年披露していた小本の各地区に伝わる七頭舞を続けられないことになりました。しかし、先輩達にはそれでもやはり「七頭舞を舞いたい」という強い思いがあって、全校演劇の中に取り入れることで、道具や衣装なしで、七頭舞を披露しました。このとき、地域のみなさんに大いに喜んでいただいたことが、全校生徒によるはじめての取組です。

この三年間、私たちのふるさとが辛い今だからこそ、地域の方々とともに前を向いて歩こうと、中野七頭舞保存会のみなさんに御指導いただきながら、舞うことで気持ちを奮い立たせてきました。今年六月、私たちが待ち望んでいる新しい校舎の起工式がありました。この日中野七頭舞を舞って、地域のみなさんとともに祝いました。

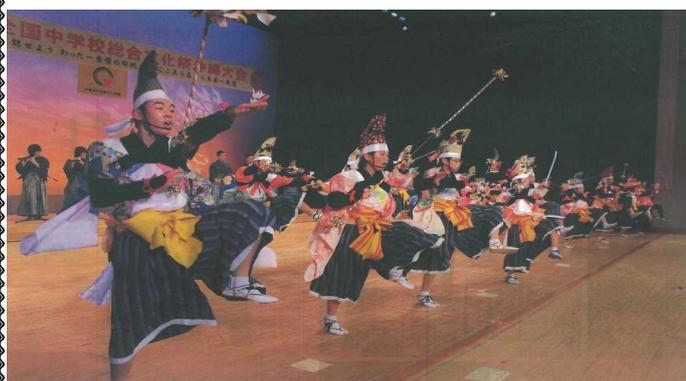
今日は小本の誇りである中野七頭舞に、伝統を受け継ぐ喜びや感謝の気持ちを乗せ、未来を切り開いていこうという気持ちで力強く踊ります。



「語り」の学校紹介から舞いはじまる



H26.6.19 小本中新校舎起工式



郷土芸能「中野七頭舞」を熱演した岩手県小本中の生徒らー13日午後、浦添市でこホール



発表前日、思いを込めてリハ-サルに臨んだ

第14回全国中学校総合文化祭沖縄大会 1日目



当日、発表のようすが、インターネットのライブ中継や琉球新報の速報で全国に発信された。

全員が精一杯の力を出し切り笑顔で記念写真

【伝統を受け継ぐ心】

平成26年度「わたしの主張」下北大大会 小本中学校代表生徒の発表から

「つなぐ」 岩泉町立小本中学校 3年 金澤海斗
我がふるさと小本の誇りである中野七頭舞は、天保年間の飢饉に襲われた際、貧しさに負けずに踏ん張ろうという思いを込めて踊ったと言われる芸能です。七頭舞は、その名の通り七種類の道具と七つの踊りから成り立っています。私はその中で「先打ち」という道具を担っています。「先打ち」は、全体に先がけ真っ先に舞いをはじめる役割です。荒野をかきわけ荒れ地を開拓するという気持ちで威厳を持って舞います。私が入学したのは平成24年4月、東日本大震災で被災して1年が過ぎ、仮設校舎での生活が始まってまもなくです。活動の場が限られ、部活動など思い通りにできない辛い時期でもありました。しかし、うしろばかり振り返ってはいけな、そんな今だから小本中生として元気な姿を見せよう。地域のみなさんとともに前に進もう。そのような思いから、先輩達とともに、文化祭で「中野七頭舞」の発表を復活させました。

そして翌年、岩手県中学校総合文化祭での発表をめざして、中野七頭舞への全校生徒による取組が始まりました。踊り手、お囃子の他に、七頭舞の歴史や道具を説明する語り手に分かれ、それぞれが役割を担いながら取り組みました。

初めはただ、一生懸命舞うことで気持ちを奮い立たせていたという状態でしたが、何度も練習を重ね、息が合ってきました。そうしていくうちに舞う喜びも感じられるようになりました。しかし、踊りを発表することに慣れてくると、次の目標が持てず、何か行き詰まった感じがしてくる自分を感じていました。そんなときです。「僕は七頭舞を誇りに思っている。だからもっと多くの人に伝えていきたいんだ。「受け継ぐ」それはただ舞を絶やさずつないでいくことだけではない。地域はもちろん、もっと広く世界に発信していくことが必要なんだ。」先輩のこの言葉を聞いて、「そうだ、私も」という気持ち、身体の中に熱い何かがこみ上げるような気持ちになりました。それからというもの、以前にも増して練習に力が入るようになりました。そして、そう感じていたのは私だけではありませんでした。ダンツコツコツコダンツコダン、ダンツコツコツコダンツコダン。今、私たちは中野七頭舞を踊る時、力強いお囃子に乗りみんなの心がどんどん高まり一つになっていく喜びが感じられます。自分達だけではなくみんなの思いを背負い舞っているのだと思うと伝統を受け継ぐ重みと喜びを感じます。

今年六月、再来年に完成予定の新校舎の起工式が催されました。私たちはその席で、明るい未来を切り開いていくという思いを乗せ、「中野七頭舞」を精一杯舞いました。願いが詰まった夢への第一歩です。

そして、十二月には、私たちは沖縄で開催される全国中学校総合文化祭で舞う機会をいただきました。私たちは、導いてくれた先輩方や、指導して下さる保存会のみなさんの熱い思いをしっかり胸に持って臨みます。「中野七頭舞には多くの人たちの夢や希望が詰まっています。私は思っています。伝統を継承するとは技術だけでなく、同時にそこにたどり着くまでのいろいろな思いもつないでいくことだと。私は、この思いを手放さず、次に舞う後輩へしっかりつなげていこうと思います。



先打ち



【実践を終えて】

本年度の中野七頭舞は、全国中学校総合文化祭まで5回の発表の機会をいただいた。それぞれの発表で、互いに役割を確認しながら全校生徒による取組を進めてきた。その中で新入生は、先輩や保存会のみなさんから受け継ごうという気持ちを持ち、2・3年生は誇りをもって、中野七頭舞を後輩に伝えようとする姿勢が身についてきた。来年度以降は、新校舎への移転を機に地域の保存会と小・中が連携することを視野に入れながら取組を継続していきたい。

【実践内容の紹介②】実践Ⅱ 「防災教室」

総合的な学習（3時間扱）
小本中生徒45名

[そなえる]

- ⑩ 自然災害発生の仕組み
- ⑫ 学校・家庭・地域での日頃の備え

【題材名】 防災教室

【対象】 岩泉町立小本中学校生徒45名

【ねらい】 ・自他の生命を尊重し自らを守るために、非常事態発生に対応できる態度を養う。
・地震・津波等の災害に備え、生徒の防災意識を高める。

【日時】 平成26年10月31日（金） 9:45～10:35（2校時）防災マップ事前学習
平成26年11月20日（木） 13:30～14:20（5 / 6校時）

【内容】 (1) 講演「経験したことの無い大雨 そのときどうする?！」
(2) 実習「地域の防災マップ作り」

【活動の概要】

講演

○盛岡地方気象台の工藤貴彦さんから大雨が降るしくみと危険だと思った時の対処についてお話をいただいた。

防災マップの制作

①事前学習：10/31 2校時

○地区生徒会毎に集まり、昨年制作した地区毎の防災マップについて2・3年生から1年生に説明する。

○11月9日までの休日を使って、実際に地域を歩き、防災マップに挙げられた各地区の避難場所・危険箇所・役立つ物等を撮影してくる。（説明：小田島）

②防災教室後半：11/27 6校時

○土砂災害気象官の三上康治さんから生徒が撮影した写真にコメントをいただき、全校生徒で確認する。

○地区毎に写真に説明をつけ、マップに貼りつける。



【生徒の感想から】

- 1年 女子 いつでも避難できるように、普段から家族と相談して、協力していきたいと思いました。「自分は、大丈夫」と思わずに危険なことが起きたら冷静に避難出来るようにしたいです。
- 1年 女子 災害について知らなかった事をたくさん知る事が出来ました。実際に防災マップを作って地域の避難場所や危険な場所について確認する事もできたので良かったです。
- 1年 男子 中野地区の危険な所や安全な所を知る事が出来たので良かったし、大雨が降っているとき川がすごく深くなる事を初めて知りました。
- 2年 男子 今日の防災教室で学んだ事で、一番印象に残っている事は、普段水が流れていない所でも土石流などといった災害が起こるという事です。だからこのようないつ起こるか分からない災害に対して知る事が出来たので良かったと思います。
- 3年 男子 危険だと思ったら、人に頼らずに自分で考えて行動する事が大事だと思いました。一人では、落ち着いて行動し、避難場所や安全な場所を確認しておきます。
- 3年 男子 今日は、積乱雲や土砂崩れ川の氾濫などたくさんの自然災害について学びました。以前から知っていた事や、今日初めて知り驚いたりもしました。そして、ハザードマップを作るにあたり、それぞれが撮ってきた写真を説明したり、みんなで話し合ったりするのがとても楽しかったです。今日学んだ事をこれからも繋げて行きたいです。
- 3年 女子 今日は、天気の話や災害にあったときどういうふうには逃げるか知る事が出来て良かったです。自分で行動することが大切だし、今日、写真を撮って確認する事、また、一つ一つどこが危険なのかどういう時にどの場所に避難するのかハザードマップを使い考える事ができました。
- 3年 女子 今日の防災教室では、災害や危険な場所などについて皆で考える事が出来ました。ハザードマップを完成させる事が出来ました。「作って終わり」ではなく大人になってからも自分の命を守るために周りの状況を確認して行きたいです。来年の後輩達にも防災について考えてほしいです。

平成26年度版 地域防災マップ 中野地区

12 photo cards with titles and explanations:

- 1. 避難所... 危険箇所... 口役立つ... その他...
説明: 川が氾濫... 崖... 崩れ... があるため... 大規模な... 被害に... 危険...
- 2. 避難所... 危険箇所... 口役立つ... その他...
説明: 東支路... 避難所の... 道... 道が... 整備... されて... いる... ため... 危険... はない...
- 3. 避難所... 危険箇所... 口役立つ... その他...
説明: 東支路... 避難所... 付近... 橋が... 壊れる... 危険...
- 4. 避難所... 危険箇所... 口役立つ... その他...
説明: 避難所... 付近... 崖... 崩れ... がある... ため... 危険...
- 5. 避難所... 危険箇所... 口役立つ... その他...
説明: 避難所... 付近... 崖... 崩れ... がある... ため... 危険...
- 6. 避難所... 危険箇所... 口役立つ... その他...
説明: 避難所... 付近... 崖... 崩れ... がある... ため... 危険...
- 7. 避難所... 危険箇所... 口役立つ... その他...
説明: 避難所... 付近... 崖... 崩れ... がある... ため... 危険...
- 8. 避難所... 危険箇所... 口役立つ... その他...
説明: 避難所... 付近... 崖... 崩れ... がある... ため... 危険...
- 9. 避難所... 危険箇所... 口役立つ... その他...
説明: 避難所... 付近... 崖... 崩れ... がある... ため... 危険...
- 10. 避難所... 危険箇所... 口役立つ... その他...
説明: 避難所... 付近... 崖... 崩れ... がある... ため... 危険...
- 11. 避難所... 危険箇所... 口役立つ... その他...
説明: 避難所... 付近... 崖... 崩れ... がある... ため... 危険...
- 12. 避難所... 危険箇所... 口役立つ... その他...
説明: 避難所... 付近... 崖... 崩れ... がある... ため... 危険...

【まとめ】

本年度の小本中学校における復興教育の柱となる2つの実践について紹介してきた。実践Ⅰの「中野七頭舞」への取組は、震災以降、取組の中心としてきた活動である。本年度は小本中から全国へ向けて発信する絶好の機会をいただいたものである。昨年までの「舞い」「お囃子」「語り」の3つの役割に加え、全国大会発表に向け新たに「道具」「映像操作」「記録」の役割を決め、それぞれのグループの全員が懸命に取り組んだ。当日、舞い終わると同時に鳴りやまぬ拍手をいただき会場のみなさんの気持ちが伝わってきた、発表は大成功を収めることができた。これらの経験を経て、子ども達は今後も大きく成長できるものと考えられる。

また、中野七頭舞保存会のみなさんにはこれまでの発表のすべてにおいて生徒の活動に深く関わり、ご指導いただいた。さらに、七頭舞を楽しみにしている地域のみなさんをはじめ、観覧していただいたすべての方から寄せられる思いによって、生徒達は「中野七頭舞」を地域に伝わる文化として捉え、発表を重ねるごとに誇りと自信が増していく1年間であった。今後も小本中生たちは真剣な気持ちで取り組み、小本中からの発信を続けていくものと確信する。

実践Ⅱ「防災教室」の活動では、自分たちの住んでいる地域の環境や自然災害とどのように向き合っていくかを考え、どのようにして命を守るのか懸命に考える姿がみられた。

また、昨年からの取り組んでいる地域防災マップの取組では、新たに写真を撮ることで地域の避難所や危険箇所の検証を地区の生徒全員で行うことができたことに加え、先輩から新入生へ伝える場面も設定できた。来年度末の新校舎移転により、通学路が変更になることも視野に入れながら次年度の取組を進めたい。